第７回
西予市おイネ賞事業表彰式

日本医師会
女性医師支援シンポジウム

被災を乗り越え、もっと素敵な西予市へ

平成30年11月18日　日曜日　13:00
西予市宇和文化会館　大ホール

主催／愛媛県西予市　公益社団法人日本医師会
一般社団法人愛媛県医師会

後援／愛媛大学医学部・厚生労働省・愛媛県
西予市医師会・ドイツシーボルト協会
愛媛新聞社・NHK松山放送局・南海放送
テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ（順不同）

○西予市おイネ賞事業

趣旨

シーボルトの娘で日本初の産科女医「楠本イネ」を育んだまちとして、医学研究や医療活動に躍進する女性を表彰し、奨励することで西予市の全国発信とともにおイネのまちづくりで地域の活性化を図る。

目的

女性医師を奨励し、社会における女性活躍躍進へつなげる。
活躍が期待できる地域における女性医師を奨励する。
これから芽が出ようとする地域における女子医学生を奨励する。

次　第

第１部　第７回 西予市おイネ賞事業表彰式

１３時００分

1．開会
2．主催者あいさつ
3．西予市おイネ賞受賞者発表
4．審査機関紹介及び審査総評
5．祝辞及び来賓紹介
6．表彰状贈呈
7．受賞者あいさつ
8．閉会

「読書をするイネ」
写真：大洲市立博物館所蔵

第２部　日本医師会 女性医師支援シンポジウム
～被災を乗り越え、もっと素敵な西予市へ～
１４時００分

Ⅰ 市民講座

座長:日本医師会　常任理事　小玉 弘之

講師：久田（ひさだ） 直子（なおこ）氏
元 NHK「きょうの健康」キャスター

演題：健康長寿のために
～男と女、それぞれが健康に生きるには～

★内　容★
男性にも、女性にも、それぞれの体の特徴があり、それぞれの健康への道筋があります。長い人生、イキイキとはつらつと住み慣れた地域で暮らしていきませんか。この講演では、健康を守りぬく正しい知識と取り組みやすい方法も提案します。

★プロフィール★
福島テレビアナウンサーからフリーに転身。民放キー局、NHKなどで報道、情報番組司会、リポートを担当。1999年よりNHK「きょうの健康」司会を15年間努める。現在はNHKテレビEテレ「TVシンポジウム」医療シンポジウム司会として活躍中。

Ⅱ 基調講演

講師：塩崎（しおざき） 恭久（やすひさ）氏
衆議院議員 / 元 厚生労働大臣

演題：女性医師支援がめざすもの
～医療とまちづくり。被災を乗り越えて～

★内　容★
災害に強い、社会システムとしての保健医療の再構築と、災害弱者の視点も考慮した「地域共生社会」の重要性が増している。特に女性医師への期待は大きく、タスク・シフトやICT等を活用した柔軟な働き方により、女性医師が輝く、個性あるキャリア形成を選択可能に。

★プロフィール★
衆議院議員　愛媛県第1区選出
衆議院８期、参議院1期
昭和50年東京大学教養学部教養学科アメリカ科卒業後、日本銀行入行。昭和57年ハーバード大学行政学大学院修了。平成５年衆議院議員初当選（旧愛媛１区）以後国政選挙連続８回当選。内閣官房長官・拉致問題担当大臣、厚生労働大臣を歴任。現在、自民党「データヘルス推進特命委員会」委員長、「行政改革推進本部」本部長等を務める。

Ⅲ パネルディスカッション・総括

座長:愛媛県医師会　会長　村上　博

テーマ：被災を乗り越え、健康で長生きできるまちづくり

パネリスト

西予市長
管家　一夫

衆議院議員
元 厚生労働大臣
塩崎　恭久

日本医師会女性医師
支援センター　参与
今村　定臣

愛媛県医師会副会長
西予市医師会　会長
井関　満永

西予市立野村病院副院長
西予市医師会理事
大塚　伸之

主催者あいさつ

西予市長　**管家　一夫**

木々の葉もすっかり落ち、本格的な冬の到来を感じる頃となりました。

このような向寒のみぎりに、第７回西予市おイネ賞事業表彰式並びに女性医師支援シンポジウムを開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、皆さんご存知のとおり、７月の記録的豪雨により、この西予市は、大きな災害に突如見舞われました。大雨がもたらした未曽有の大災害は、想像を絶するものであり、尊い命、家屋や生業、大切な思い出など、多くのものを奪っていきました。犠牲となられた方、被災をされた皆様には、改めてお悔やみとお見舞いを申し上げます。

当たりまえの日常が、突然失われ、被災当初は混乱を極めておりましたが、医師会の皆様をはじめ各方面、関係機関のお力添えをいただいたおかげで、復興へ向けての歩みが、一歩ずつ前へ進んでおります。この場を借りまして、改めてお礼を申し上げます。また、昨年度より自治体との連携による医療を通じたまちづくりの取り組みにご賛同いただきまして、主催として当事業に加わっていただいております、日本医師会様、愛媛県医師会様、加えまして、共催・ご後援賜っております諸団体の皆様におかれましては、シンポジウムを開催するにあたり、被災を乗り越え、医療・介護・福祉の連携が深まる会にしたいとの想いにご理解いただきまして、このような盛大な会となりましたこと心より感謝申し上げます。

さて、シーボルトの娘、イネの偉業を継承し、その志を受け継ぐ全国の女性医師を奨励するこの「西予市おイネ賞事業」も、おかげさまをもちまして、本年で第７回目を迎えます。イネの生きた時代は、女性が学問をすることに対して容易に理解が得られなかった時代でありました。また、ドイツ人と日本人との間に生まれ、その容姿から差別も少なくなかったことでしょう。しかしながら、イネは、自らの意志と信念を貫き、みごと日本初の産科女医となったのです。あらゆる困難を乗り越え、医師として、母として、苦難と誇りに満ちた生涯を見事に生き抜いたおイネさんの人生は、私たちに勇気を与えてくれるとともに、復興への道を歩む私たちを、月下に浮かぶ一筋の道しるべのように、導いてくれると思います。

本日のシンポジウムでは、ご講演、パネルディスカッションにおいて、被災を乗り越えた医療とまちづくり、元気で逆境にも負けない人づくりなど、まさに復興へ向けてのエールをいただけるものと思っております。楠本イネという一人の素晴らしい女性からつながるご縁と繋がりに感謝するとともに、復興・再建に向けて、さらに尽力して参りますので今後ともご支援賜りますようお願いいたしまして主催のごあいさつとさせていただきます。

主催者あいさつ

公益社団法人　日本医師会

会長 **横倉 義武**

本年７月の西日本豪雨により被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。また、復興にご尽力された方々のご苦労は並々ならぬものがあったものと敬服いたしております。本日は甚大な被災を乗り越え、第７回目の西予市おイネ賞事業表彰式を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。日本医師会はおイネ賞事業の趣旨に賛同し、第３回より共催団体として参画させていただき、全国奨励賞の推薦をさせていただいております。前回は新しい試みといたしまして、西予市おイネ賞事業とのタイアップにより、日本医師会女性医師支援シンポジウムを開催させていただき、今回も引き続き開催できますこと、深く感謝申し上げる次第でございます。

昨年度、日本医師会は、設立記念日である１１月１日を「いい医療の日」として、より良い医療の構築に向けて、国民の皆さんとともに考える日とすることを提案し、日本記念日協会の認定をいただきました。現在、「いい医療の日」が広く認知され、より良い医療の在り方について、国民の皆さんと医師とが共に考えながら、更なる国民医療の向上に寄与していくことを目的として様々な活動に取り組んでいきたいと考えています。

「いい医療の日」を認知していただき、地域に合った女性医師支援や医療提供体制につきまして、市民の皆さんとともに考え、災害にも強いもっと素敵な西予市の実現とおイネ賞事業の更なる発展、ならびに受賞者の皆様がそれぞれの分野におかれまして、ますますご活躍されることを祈念申し上げ、主催者の挨拶とさせていただきます。

一般社団法人　愛媛県医師会

会長 **村上　　博**

西予市宇和町（卯之町）は、愛媛県でも最も文化的に成熟した街のひとつです。医師であり蘭学者であった高野長英も卯之町で幕末の歴史を切り拓く端緒を養いました。江戸時代末期、シーボルトの娘である楠本イネは、シーボルトの弟子になる二宮啓作を頼り卯之町で医学研修を行い偉大な足跡を遺しました。西予市が、この史実を世に知らしめ、女性医師の活躍を顕彰する事業を始めて７年目です。当初は愛媛県内の小さな事業でしたが第３回から公益法人社団日本医師会の共催を得ることで全国的なイベントに成長しましたが、発足からの理念は受け継がれ、子育てをしながら困難を乗り越えて地域医療に絶大な貢献をした女性医師や将来を担う模範的かつ意欲的女子医学部生に光を当てるものです。

社会がその担い手として広く女性医師を受け入れ、男女共同参画社会の時代を越え、現代のテーマでもある働き方改革、よきワークライフバランスのモデルとして、この「西予市おイネ賞事業」を位置付けたいと考えます。

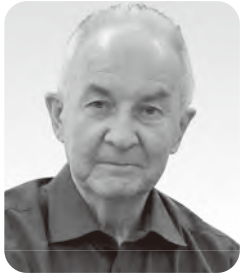
今年７月の西日本豪雨災害で愛媛県西予市、大洲市、宇和島市は大きな災害に見舞われました。お亡くなりなられたかたがたのご冥福を祈り、また被災者をお見舞い申し上げ、今なお困難と対峙しながら懸命に頑張っている皆さんに心から敬意を表します。西予市も復旧・復興の真っただ中にいます。健康であること長寿であること、まちづくりに関して医療が果たすべき役割があります。「被災を乗り越え、健康で長生きできるまちづくり」についてみなさんといっしょに考えてみたいと思います。

お祝いの言葉

ドイツシーボルト協会　名誉理事長
ウォルフガング　クライン　ラングナー　様

ドイツシーボルト学術基金理事
ハルトムート　O. ローターモンド　様

Wolfgang Klein-Langner
ウォルフガング　クライン　ラングナー



Hartmut O. Rotermund
ハルトムート O. ローターモンド

SIEBOLD-GESELLSCHAFT
シーボルト 協会

SIEBOLD-WISSENSCHAFTSSTIFTUNG

Würzburg, September 2018

Grußwort

Erfreut haben wir zur Kenntnis genommen, dass die Tradition der jährlichen Übergabe des O-Ine Awards auch in diesem Jahr fortgesetzt wird. Dies ist umso beachtlicher, als derzeit die Gedanken vorrangig der großen Katastrophe gelten, die die Region Seiyo-shi bedauerlicherweise betroffen hat. Dennoch ist es ein gutes Zeichen, wenn im Rückbesinnen auf Tradition auch die Gegenwart gemeistert und hoffnungsvoll in die Zukunft geschaut wird. Gerade die Siebold-Tochter Ine ist ein hervorragendes Beispiel für die Bewältigung schwieriger Probleme.

Der diesjährigen Preisträgerin wünschen wir in diesem Sinne alles Gute und den besten Erfolg für die Umsetzung ihrer Zukunftspläne. Möge diese Auszeichnung hierfür ein hilfreicher Ansporn sein.

Siebold-Gesellschaft e.V.
Wolfgang Klein-Langner
Ehrenvorsitzender

Siebold-Wissenschaftsstiftung
Hartmut O. Rotermund
Vorstandsmitglied

今年もまた例年のイネ賞の伝統を継承される事大変喜んで心に留めました。この事は、現在西予市地方を見舞った甚大な天災を優先的に想起するを以って、注目すべき重要な事と察します。伝統を回顧しながら、現在事情を克服され、未来に有望に視線を向ける事は善き兆しと考えられます。シーボルトの娘のイネは難しい問題を乗り越える事の良い見本と言えます。

この意味で、今年の受賞者の幸せと将来の計画を現実化する事を祈ります。今年の件の表彰はその意味で大いに励みになる様に念願しています。

シーボルト協会名誉理事長
Wolfgang Klein-Langner

シーボルト学術基金理事
Hartmut O. Rotermund

※メッセージは原文のまま掲載しています

お祝いメッセージ

第２回西予市おイネ賞受賞者（特別賞）

順天堂大学大学院医学研究科
医学教育研究室　教授

武田 裕子 様

★プロフィール

1986年筑波大学医学専門学群卒業．医学博士．米国にて内科/プライマリ・ケア専門研修．筑波大・琉球大・東京大・三重大で教員として地域医療教育，国際協力に従事．2010年ロンドン大学大学院留学．公衆衛生学修士号取得後、キングス・カレッジ・ロンドン医学部研究員．2013年にハーバード大学総合診療部門リサーチフェロー．2014年より現職．日本プライマリ・ケア連合学会理事，日本医学教育学会理事・学会誌『医学教育』編集委員長．週1日の訪問診療を楽しみに、「健康格差の社会的要因」をテーマに学生・研修医教育に従事．患者の自己責任とせずに社会的要因も考慮できる医師の育成に取り組む。路上生活者の医療相談や支援団体の研究活動への協力など、コミュニティとの協働を実践．「外国につながりのある子どもたち」と接する活動で「やさしい日本語」に出会い、医療現場における普及を図っている。

西予市おイネ賞事業関係者のみなさま
受賞者のみなさまへ

7月の西日本豪雨では未曽有の災害の報に接し、西予市のみなさまのことを案じておりました。日々の厳しい状況に思いを巡らしていたところ、「第7回おイネ賞事業表彰式・女性医師支援シンポジウム」開催のご連絡を頂戴いたしました。困難を一つ一つ乗り越えながら前進なさっていると感じました。会の開催に心からのお祝いを申し上げるとともに、今後のますますの復興をお祈りいたします。また、そのようななか、受賞された皆様は、いっそう賞の重みを感じていらっしゃることと存じます。本当におめでとうございます。

私は、2013年、第2回おイネ賞事業で特別賞を頂戴しました。3年間のロンドン留学を小学生の娘と共に過ごし、男性も女性も同じように働ける、そして休める社会がどのように成り立っているのか報告させていただきました。誰にとっても働きやすい、生きやすい社会をつくりあげていくためには、女性に対する支援というより、むしろ社会全体として働き方を見直す必要があると述べました。それから5年経ち、現在、日本でも政策として「働き方改革」が進められています。ゆっくりとですが変化も感じられます。

おイネさんの時代には、女性が職業を持つことすら困難でした。特別な生い立ちを背負い、異なる外見を抱えて生きていくには、かなりの覚悟が必要であったと想像します。しかし、文献などから伝わってくるのは、向学心にあふれ颯爽と前を向いて生き生きと歩み続けるおイネさんの姿です。二宮敬作という心から尊敬できる師に、優れた技術と知識を伝授され、貧富の隔てなく心ある医療を提供する姿勢を学べたときの喜びははかり知れなかったと想像します。町の方々も、敬愛する敬作先生の弟子を暖かく迎え入れたことでしょう。その5年間があったからこそ、その後の理不尽な出来事や、無理解・偏見にも毅然と立ち向かう強さと優しさが育まれたと考えるのは私だけではないと思います。

女性であることに起因する困難、例えば進学率や生涯賃金の差、「#MeToo」と声をあげることも憚られる空気など、構造的な問題は残念ながら今も残っています。しかし、どのような困難に直面しても前進し、自分の置かれた状況にかかわらず優れた医療を提供し続けたおイネさんの姿は、私たちを勇気づけます。おイネさんの真の偉大さを感じるのは、むしろ苦しい状況に置かれたときかもしれません。楠本イネという女性医師の生き方を私が深く知ることができたのは、西予市のおイネ賞事業のおかげです。この事業が継続されていることは、現代を生きる女性医師・医学生にとって非常に大きな励ましとなっています。おイネさんの力強い人生を、私も次の世代の医師たちに伝えていく所存です。おイネ賞事業のますますのご発展をお祈りし、ここにあらためて感謝を申し上げます。

お祝いメッセージ

第３回西予市おイネ賞受賞者（地域奨励賞）

愛媛県医師会理事／たんぽぽクリニック
認定特定非営利活動法人ラ・ファミリエ理事
特定非営利活動法人チャイルド・オレンジ・ネットワーク理事

大藤（おおとう） 佳子（よしこ） 様

★プロフィール

1989年愛媛大学医学部卒業。小児科専門医、「子どもの心」相談医。小児血液腫瘍、母子保健、発達・療育、在宅医療を専門とする。愛媛県立南宇和病院、愛媛大学医学部附属病院勤務を経て、1999年より愛媛県立中央病院小児科に勤務。次女の育児休暇中より、難病や障害をもつ子どもと家族を支援するNPO法人ラ・ファミリエの設立に携わり、2003年愛媛県が建設した慢性疾患児家族滞在施設「ファミリーハウスあい」の運営を開始。2007年より愛媛県立子ども療育センターに勤務し、重症心身障害児や発達障害児の診療や療育に携わる。2015年より愛媛県立新居浜病院／地域周産期母子医療センターにおいて、重症児や医療的ケア児の在宅移行、虐待予防に取り組む。2018年10月よりたんぽぽクリニックに勤務し、治す医療から寄り添い・生活をまるごと診る医療＝在宅医療を学び、慢性疾病をもつ子どもの成長・発達を促す医療を目指す。小児がんや医療的ケア児、重症心身障害児など、命を脅かす病気(LTC:life threatening children)の子どもたちのための「子どもホスピス」設立もライフワークとする。認定NPO法人ラ・ファミリエでは、2015年より愛媛県と松山市から「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」の委託を受け、行政や教育・福祉関係者とともに「慢性疾病を乗り越えていく子どもたち」の支援に取り組む。

西予市おイネ賞受賞者の皆さま
西予市の皆さまへ

第7回西予市おイネ賞受賞の皆さま、この度は本当におめでとうございます。患者さまやご家族のため、日々頑張っておられる女性医師と若い女子医学生に与えられる、このすばらしいおイネ賞を受賞されましたこと、心よりお慶び申し上げます。

先輩の女性医師から、第1回おイネ賞の作文コンクールへの応募を勧められ、おイネさんを知り、難病や障害をもつ子どもと家族を支援するＮＰＯでの活動を中心に、「子育て支援に大切な、新しい社会のしくみづくり」について書かせていただいたことは、自分を振り返るよい機会になりました。その後、応募作文は懸賞作文集となり、今でも時々読み返しては、頑張っておられる女性医師の皆さまの作文に、元気や勇気をいただいています。（ひそかに懸賞作文集の2冊目を期待しています。）さらに、4年前におイネ賞地域奨励賞をいただきましたが、それまでは女性医師として、妻や母として、毎日どう向き合ったらよいか考える余裕がなかったように思います。職場の先生方や家族、ＮＰＯ活動の仲間や子育て支援の方々などに支えられて、仕事に子育てに邁進してきた私にとって、この受賞はふと立ち止まって「これからの生き方」や「これからの女性医師とは」を考える上で大きな励みになりました。今年6月には愛媛県医師会理事を拝命し、愛媛県内の女性医師や女子医学生の皆さまが、働きやすく子育てしやすい環境を整えていく立場となり、今までの経験を活かしながら力を尽くしていきたいと思います。受賞された皆さまも、このおイネ賞を励みに、ご自分の夢に向かって、今後もますますご活躍されますよう、願っております。

最後に、西予市はじめ愛媛県は、この7月にかつてない豪雨災害を経験しました。被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。西予市は「第２のふるさと」のように想い、とても心配しておりました。ＮＰＯ関係者で7月終わりに被災された野村地域の視察をさせていただき、被害の大きさと子どもたちの環境が一変していることにとても驚きました。大変な中、地域の方々が必死に頑張っておられ、被災地の子どもたちは少しずつ落ち着いてきておりましたが、今後も子どもたちへの支援と支援者支援は必要と思います。地元の関係者の方々と一緒に、長期的な視野で支援をさせていただければと思っております。復興にご尽力されている中、このおイネ賞事業は予定通り継続されるとお聞きしました。西予市の皆さまに御礼申し上げますとともに、おイネ賞事業のますますのご発展を祈念しております。

第７回　西予市おイネ賞受賞者紹介

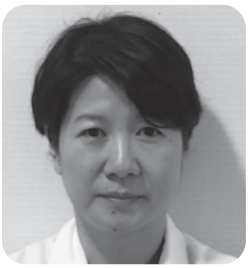
「全国奨励賞」

東京大学大学院医学系研究科
ゲノム医学講座　特任准教授

細谷（ほそや）　紀子（のりこ） 氏

平成5年、東京大学医学部医学科卒業。平成11年、東京大学大学院医学系研究科内科学専攻修了、博士（医学）取得。日本学術振興会特別研究員、東京大学医学部附属病院無菌治療部助手を経て、平成18年、東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター助教。平成24年、同 講師。平成30年、東京大学大学院医学系研究科ゲノム医学講座特任准教授。放射線によって引き起こされるDNA損傷に対する生体応答の制御メカニズムの研究と放射線生物学の教育に従事している。東大病院では、キャンサーボード委員会の委員としてがんの集学的治療の病院横断的な活動に携わっている。また、一男一女の母として医学系キャリアを継続してきた経験を活かし、東京大学大学院医学系研究科・医学部をはじめ、学会、医師会などの男女共同参画や次世代医師育成の委員会のメンバーとして、女子医学生・女性医師・女性研究者が能力を発揮できるための環境作りに尽力している。

「地域奨励賞」

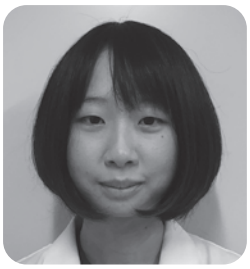


愛媛県立中央病院産婦人科医監部長

阿部（あべ）　恵美子（えみこ） 氏

四国中央市（川之江市）出身、1993年、愛媛大学医学部卒業、同年愛媛大学医学部産科婦人科学教室に入局し、同病院、愛媛県立中央病院にて研修。2001年愛媛大学大学院医学系研究科博士課程修了。2008年より愛媛県立中央病院産婦人科・総合周産期母子医療センター勤務。同センターは、愛媛県唯一の総合周産期母子医療センターであり、県内すべての周産期医療機関と連携し、ハイリスク妊娠・分娩の母体や超低出生体重児や先天異常など病的新生児を、24時間体制で受け入れており、愛媛県の母子の命を救ってきた功績は顕著である。

「医学生奨励賞」



愛媛大学医学部　医学科　５年

桑原（くわはら）　希（のぞみ） 氏

愛媛県今治市出身
現在愛媛大学医学部医学科５年生で臨床実習など勉学に励んでいる。また、医学部スキー部に所属し、サークルでは会計を担当するなど、中心的人物として同僚・後輩とともに熱心に活動している。後輩の悩みにも積極的にアドバイスをするなど信望も厚い人物であり、今治西高等学校から愛媛大学医学部に進学し、学業成績は常にトップクラス。将来は楠本イネ先輩同様、産婦人科を目指して勉学に励んでいる。